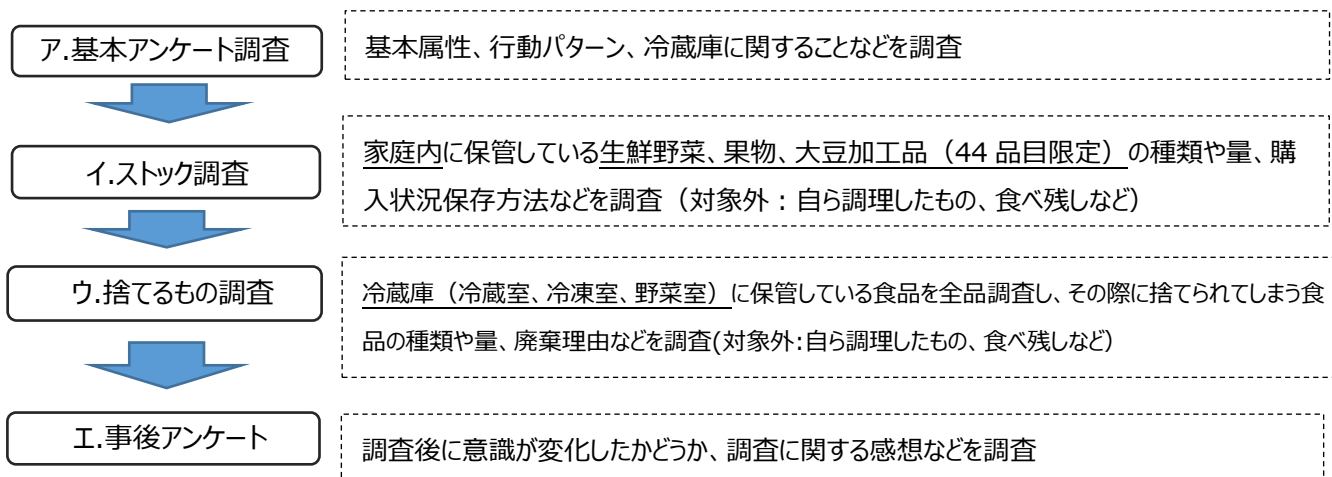


# 家庭の食品ロス実態調査 結果の概要

## 1 調査概要

- (1) 調査対象 大阪府内に居住する世帯（20～60 代男女）
- (2) サンプル数 有効回収 300 票（有効回収率：69.9%）
- (3) 調査方法 インターネット調査
- (4) 調査期間 平成 30 年 11 月 6 日～26 日（期間中に 1 回だけの実施）
- (5) 調査内容



## 2 調査結果

### 【ポイント】

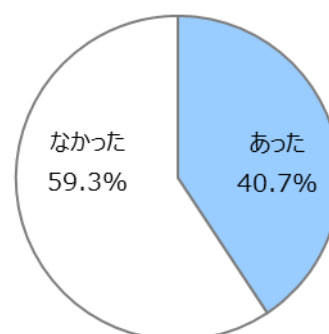
- ・ 4 割の世帯で廃棄する食品があった。
- ・ 廃棄が多いのは、年代別では 40 代、同居家族別では小学生・中学生・高校生が同居している世帯
- ・ 廃棄する食品は「調味料」と「生鮮野菜」で 5 割を超え、捨てるに済んだ方法として、「レシピを調べる」が多かった。
- ・ 廃棄する食品を金額に換算すると 187 円／世帯で、大阪府全体では 7.56 億円（404 万世帯）※推計値
- ・ 廃棄率※が高いのは、冷蔵庫の整理頻度が少ない世帯 ※廃棄率とは、廃棄する食品があった世帯の割合
- ・ 食品ロス削減のために今後取組みたいこととして、「定期的な冷蔵庫の整理」が最も多かった。
- ・ 本調査で約 70%の世帯が、食品ロス削減の意識が高まったという回答であった。

### (1) 捨てるもの調査関係

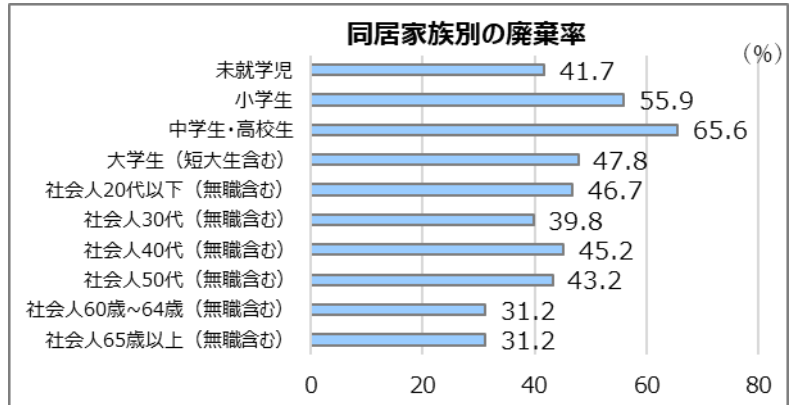
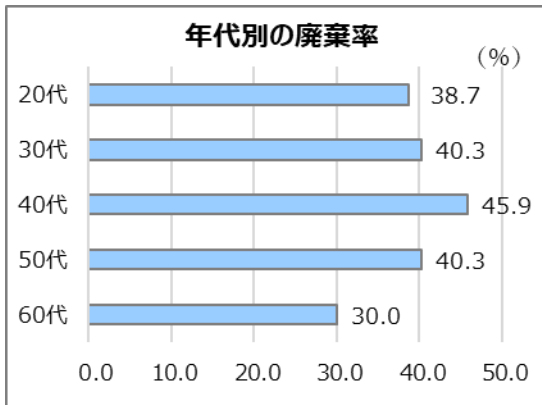
#### ○ 4 割の世帯で廃棄する食品があった

- ・ 冷蔵庫内に保管している食品を全品調査した際に、廃棄する食品・食材が発生したのは 300 世帯中 122 世帯（40.7%）であった。発生した世帯における平均個数は 3.59 個であった。

捨てる食品・食材の有無



- **廃棄が多いのは、年代別では40代、同居家族別では小学生・中学生・高校生が同居している世帯**
  - ・年代別では40代（45.9%）の廃棄率が高く、小学生・中学生・高校生が同居する世帯では、5割を超える世帯で廃棄している。



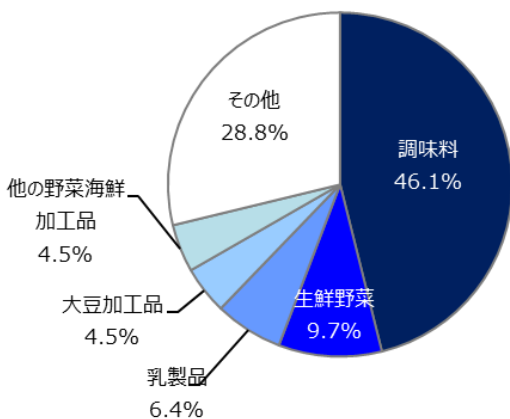
- **廃棄する食品は「調味料」と「生鮮野菜」で5割を超える**

- ・調味料は件数ベースで46.1%を占めており、購入量の約1/3以上（36.5%）が捨てられていた。
- ・調味料に次いで多いのは、生鮮野菜（9.7%）で、調味料と合わせると5割を超える。
- ・調味料の内訳は「チューブ型調味料」が最も多く、他に「ドレッシング」や「たれ」類も多い。

調味料の上位内訳（件数）

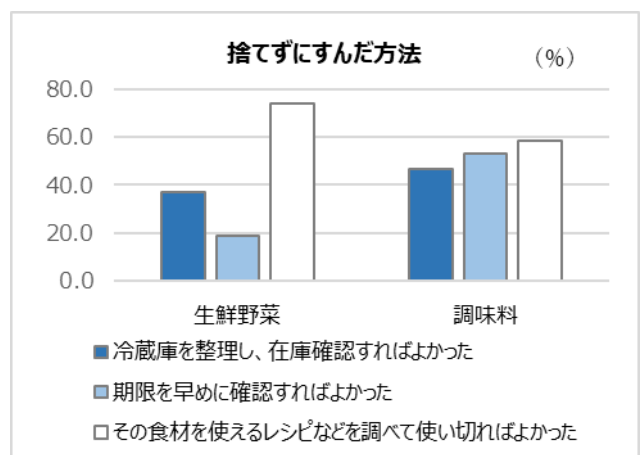
順位	食品名	件数 (件)	割合 (%)
1	(チューブ) からし・マスタード	16	8
2	ドレッシング	13	7
3	その他のつゆ・たれ	12	6
3	(チューブ) わさび	12	6
4	(チューブ・瓶入り) 柚子胡椒	8	4
4	つゆ・たれ(焼肉のたれ)	8	4
4	(チューブ) にんにく・ガーリック	8	4
4	レモン汁	8	4
-	その他	110	56
合計		195	100

捨てる食品・食材の件数



- **廃棄する調味料、生鮮野菜を捨てずに済んだ方法として、「レシピを調べる」が多かった**

- ・廃棄する調味料、生鮮野菜については「その食材を使えるレシピなどを調べて使い切れればよかった」の回答が多かった。



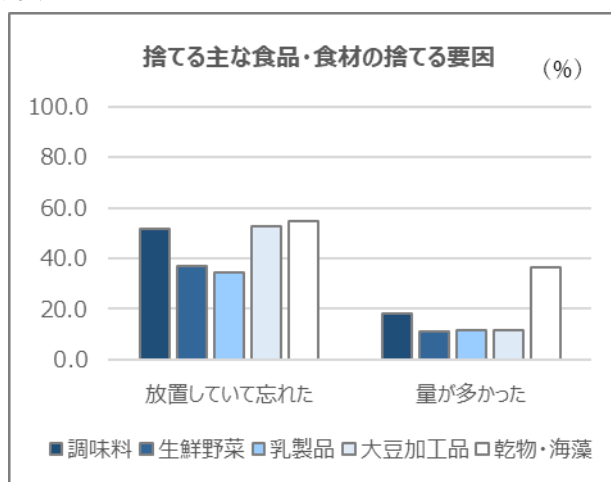
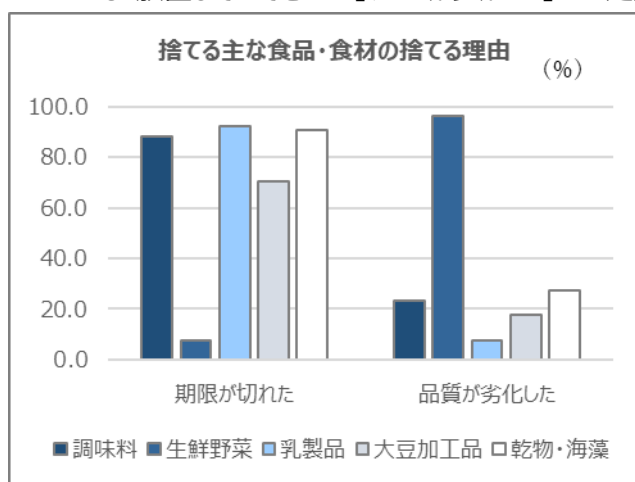
○ 廃棄する食品を金額換算すると 187 円／世帯で、大阪府全体では 7.56 億円（404 万世帯）

- ・ 300 世帯のうち、廃棄があった 122 世帯の廃棄する食品を金額換算すると 56,111 円であり、1 世帯あたりでは 187 円となる。
- ・ 本調査結果を大阪府全体の世帯数（4,043,385 世帯）をもとに推計すると、廃棄食品の金額は約 7.56 億円となる。

※金額は、小売物価統計調査等の価格を基に換算した。

○ 廃棄理由は「期限切れ」や「品質劣化」が多い

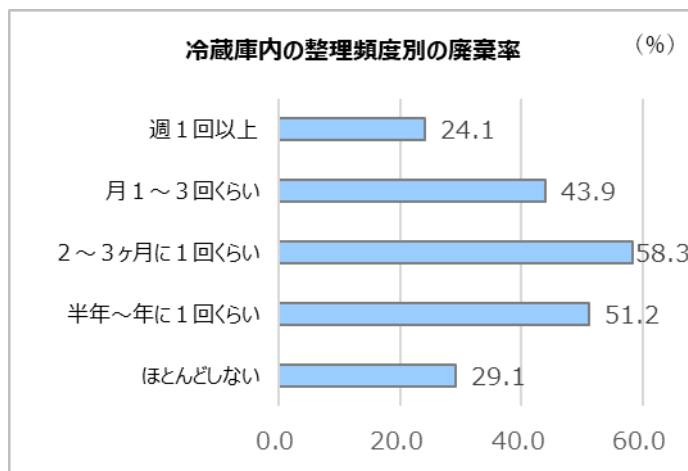
- ・ 廃棄理由は「期限切れ」が最も多く、次いで「品質劣化」が多くあげられた。また、それらを引き起こす要因と考えられる「放置して忘れてた」、「量が多かった」も一定数あげられた。



○ 冷蔵庫の整理頻度が少ないと廃棄率が高くなる

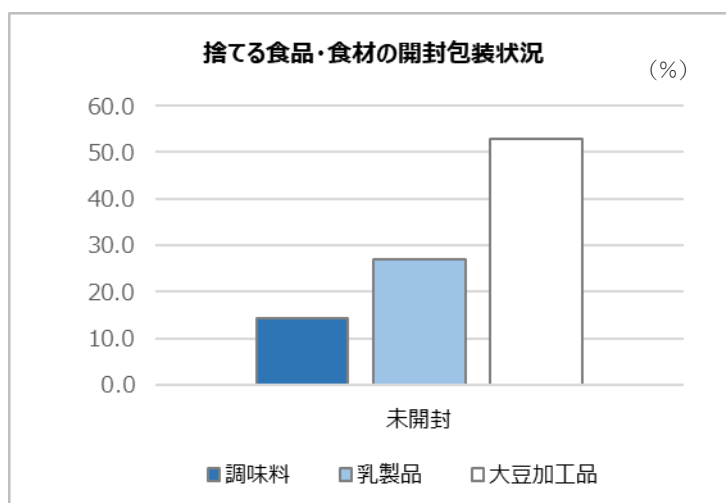
- ・ 「2～3か月に1回くらい」、「半年～1年に1回くらい」の層では、5割を超えて廃棄している。

※廃棄率とは、廃棄する食品があった世帯の割合



## ○ 未開封のまま廃棄する食品も一定数見られる

- ・ 廃棄する食品がある世帯のうち、未開封のまま廃棄する世帯は、「調味料」では 14.3%であるのに対して、「乳製品」では 26.9%、「大豆加工品」では 52.9%にも上る。



## (2) ストック調査関係

### ○ 年代別では 60 代、同居家族別では 65 歳以上同居世帯のストック品目数が多い

- ・ 全体のストック平均は調査対象 44 品目のうち 10.54 品目であり、60 代では 14.27 品目、65 歳以上同居世帯では 15.64 品目である。

### ○ 半数以上の食品・食材は、購入時の 70%前後(重量比)のストックとなっている

- ・ ストック調査対象 44 品目のうち 29 品目の食品食材は、購入時の 65~75%の保管量となっている。

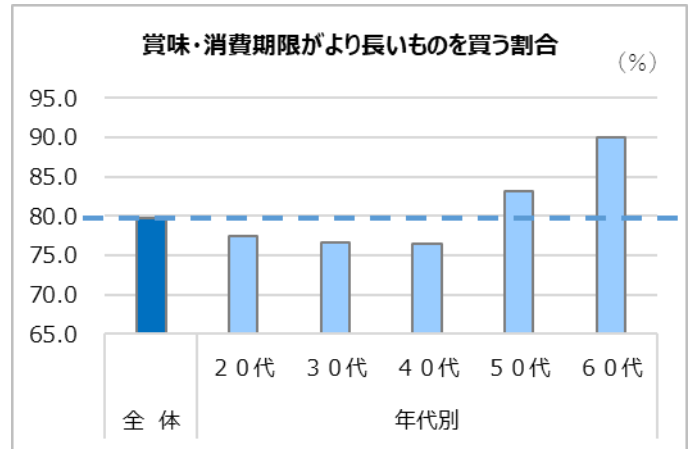
### ○ ストックしている食品・食材のうち、「具体的な予定はないが使いきるつもり」「使いきれずに捨てるかもしれない」が 40%以上の食品・食材が 17 品目ある

- ・ 「ねぎ類」「きのこ類」などは冷凍保管や「タッパー・保存袋に入れる」場合でも、「具体的な予定はないが使いきるつもり」「使いきれずに捨てるかもしれない」の割合が高い。

### (3) その他

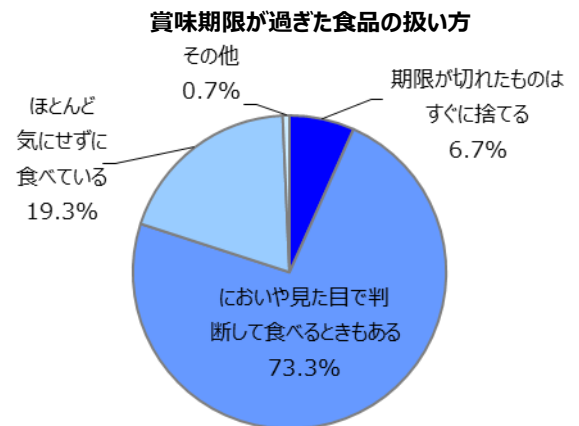
#### ○ 約 8 割の世帯が賞味・消費期限の長いものを買っている

- ・「店頭では棚の奥のほうから商品を取るなどして、賞味・消費期限がより長いものを買う」と回答した世帯は 79.7%。特に 60 代で 90%と顕著に表れている。



#### ○ 約 7 割の世帯が賞味期限切れ食品をにおいや見た目で判断している

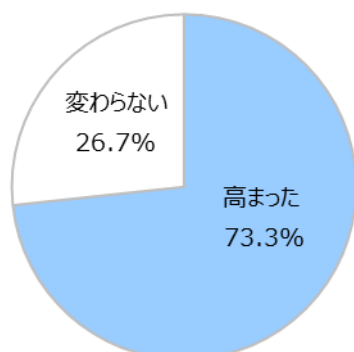
- ・期限が切れた食品を「すぐに捨てる」(6.7%) のは少数派であり、大半が「においや見た目で判断」(73.3%) している。



#### ○ 本調査で約 70%の世帯が、食品ロス削減の意識が高まったという回答であった

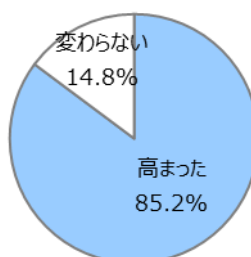
- ・本調査で、「食品ロスを減らそうという意識が高まった」と回答した世帯は 73.3%であった。世代別では 20 代が 80.6%、30 代が 75.3%と全体より高い。
- ・忘れていた食品を使った（又は使おうと思った）世帯は全体の 16.7%。世代別では 40 代が 21.2%と全体より高い。
- ・廃棄がある場合、85.2%の世帯で意識が高まり、廃棄がなかった場合でも、65.2%の世帯で意識が高まった。
- ・食品ロス削減のために今後取組みたいこととして、「定期的な冷蔵庫の整理」が最も多かった。

食品ロスを減らそうという意識の高まり



廃棄有無別の意識の高まり

廃棄あった (122 世帯)



廃棄なかった (178 世帯)

